

トップアスリートによる「夢・授業」

○トップアスリートを学校に招聘する事業（経済戦略局）

トップアスリートを講師に招き、「夢」を持つことの大切さを語っていただき、実技指導を行っていただく。

トップアスリートとの交流を通じて、「夢」を育み、スポーツへの興味・関心を喚起することを目的としている。

セレッソ大阪や大阪エヴェッサも大阪市との間で包括連携協定を結び、「夢授業」に協力。

○区内小・中学校における本事業の活用例（抜粋）

神路小学校

女子ソフトボール選手による講話・実技指導

大成小学校

元水泳選手（千葉すず氏）による講話・実技指導

以前に、プロ野球投手やシンクロ選手を招聘したことがある。

中本小学校

11月に陸上選手を招聘予定

昨年度は中本幼稚園と合同でチアリーダー（ダンス）を招聘

東中本小学校

11月にセレッソ選手を招聘予定（選手名は未定）

玉津中学校

11月に陸上選手を招聘予定。土曜授業で講話、陸上部に実技指導。

昨年度はバドミントン選手、一昨年度はバレーボール選手を招聘。

東陽中学校

昨年度セレッソ選手を招聘。土曜授業で講話、サッカー部に実技指導。

※いずれもアスリート名（選手名）の指定はできず、学校が希望する「競技種目と開催希望日程」を経済戦略局に伝え、先方の都合等と合致すれば実施している。



子どもたちの
夢を応援します

トッス・アスリートによる 『夢・授業』

受講児童生徒の感想

アスリート話を聞いて、夢を叶えるために強い気持ちを持って頑張っていこうと思うようになりました。

- ・夢を実現するためには人の話をしっかり聞くことが大事という事が分かりました。
- ・落ち込んだ時に、今日の話を思い出して夢に向かって諦めないようにしたいです。
- ・「夢はたくさん持ってもいい」と言っていたのを聞いて、僕もたくさん夢を持ってみたいと思うようになった。
- ・自ら行動を起こすこと、しっかり反省をすることが大切だと思った。
- ・今は夢がないけれど、色々な事に興味をもつことで可能性が広がっていくんだと思った。



学校の感想

教員の立場からも、授業を通じて学ぶことがたくさんあり、今後の指導方法の在り方について大いに参考になった。

- ・運動が苦手な子どもも、アスリートの方に指導してもらうことにより、楽しく授業に取り組んでいた。
- ・これまで夢について考えたことのない児童が、夢を持ってみたいと思えるようになっていた。
- ・諦めることが早い子どもたちが、積極的に「頑張ろう」という意欲を持つようになった。
- ・技術的に悩んでいた子どもがイキイキと取り組めるようになった。
- ・アスリートのダイナミックな動きに子どもたちは驚くとともに、努力することの大切さを感じる事が出来た。



「夢・授業」の目的、仕組み

「夢・授業」とは、オリンピックやワールドカップ等の世界大会に出場したトップアスリートや、国内トップリーグに所属するアスリートを講師に招き、「夢」を持つことの大切さを語っていただき、実技指導を行っていただく事業です。トップアスリートとの交流を通じて、市民や子どもたちの「夢」を育み、スポーツへの興味関心を喚起することを目的としています。

講話の時間(45分)

アスリートの体験をもとに、夢を持つことの大切さ、目標に向かって努力することの大切さを伝えます。

- ・夢を持ちはじめたきっかけ
- ・辛かったこと、挫折しそうになったこととその克服方法
- ・競技生活をしてよかったこと、楽しかったこと など



実技指導の時間(45分)

子どもたちと触れ合い、体を動かすことの楽しさ、スポーツへの興味関心を高めます。

友達を大事にすることや仲間と協力することの大切さを伝えます。

教員にとっても指導方法、子どもの実態に合わせた接し方など参考になる点があります。



※2時限継続した授業で実施する場合の組み立て方です。時間配分は目安です。

※対象学年、人数、指導方法により、プログラムの内容、時間、順序をアレンジすることが可能です。